



りんご生産情報 4月ふれあい号



令和 7 年 4 月 7 日
中央地区営農係

今年は最高積雪が 160cm（弘前アメダス）となり観測史上最高を記録しました。それに伴い、樹の幹割れや枝折れの被害が見られ、剪定作業の進みもやや遅れている状況です。生態は、3月以降気温が高く推移した為急速に雪解けが進み、平年より4～5日程度早く推移しています。生態が早いと凍霜害に遭遇する可能性が高いことから、気象情報には十分に注意し被害を未然に防ぎましょう。

また、气象台によると今後気温は高く推移する見込みであることから、1回目薬剤散布（展葉1週間後）は平年より早くなることが想定されます。黒星病防除を徹底するため下記写真を参考に「生態に合わせた」適期防除を心がけましょう。間もなく薬剤散布が始まります。剪定や枝の片付けを計画的に行い、SSの整備や通路確保に努めましょう。

1. りんごの生態 → 平年に比べ4～5日程度早く推移しています！

品種 管内	発芽日			芽出し当時			展葉日			備考
	和徳	藤崎	平年	和徳	藤崎	平年	和徳	藤崎	平年	
つがる	(4/5)	(4/8)	4/9	(4/10)	(4/13)	4/14	(4/13)	(4/16)	4/17	和徳管内：津賀野地区 藤崎管内：五林地区 を観測しています。 カッコ内は予測値 平年値は当組合生観圃平均
ジョナ	4/1	4/5	4/6	(4/7)	(4/11)	4/12	(4/9)	(4/13)	4/14	
王林	4/2	4/5	4/6	(4/8)	(4/11)	4/12	(4/10)	(4/13)	4/14	
ふじ	(4/5)	(4/8)	4/9	(4/10)	(4/13)	4/14	(4/13)	(4/16)	4/17	

2. 薬剤散布 → 1回目は生態を見ながら適期に散布を！！

消雪日や積算温度から予想すると、今年の黒星病菌の飛散は4月24日頃から始まる見込みとなっています。

園地によって生態に差が見られる場合は、生態に合わせて散布を行いましょう。

散布量	散布時期	対象病虫害	基準薬剤及び調合順序	1, 0 0 0 当りの薬量
1 展葉1週間後 300L/10a	4月20日頃	モニリヤ病・腐らん病・黒星病 リンゴハダニ・ キンモンホソガ・ギンモンハモグリガ	1 精製マシン油（97） 200 倍 2 アプロード（F） 1,000 倍 ベフラン（液） 1,000 倍	5 ℓ 2 本（1 ℓ） 2 本（1 ℓ）
特別散布	開花が延びた場合		チオノック（F） 500 倍	1 本（2 ℓ）
2 開花直前 320L/10a	4月30日頃	モニリヤ病・黒星病 ハマキムシ類	カナメ（F） 4,000 倍 バイオマックス（DF） 2,000 倍	1 本（250Mℓ） 1 袋（500g）

1 特別散布でマシン油 50 倍を散布した園地では、マシン油 200 倍を散布する必要はありません。

2 クワコナカイガラムシが心配される園地では、1回目にアプロード（F）を加用しましょう。

展葉1週間後の散布タイミング◎

・「展葉1週間後」の散布は、葉が5～6枚展葉した頃を目安に、その前後の降雨に合わせて降雨前散布を行いましょう。

～今後の防除のポイント～

天候を考慮しつつ生態に合わせた防除
特別散布の準備（生態の進みが遅れた場合）
散布量をしっかりと

この時期の散布は、葉
が小さいから「ゆっくり丁寧
に」散布すればムラ
も少なくできるよ！



展葉1週間後頃の散布適期

3. 霜害対策 → 防霜資材の準備をしておきましょう！

晴天無風で前日の午後7時の最低気温が6度以下だと、霜の降りる可能性が高まります。生態が早い年ほど凍霜害に遭いやすくなるため、事前に防霜資材を準備しておきましょう。防霜ファンを設置している園地では、始動温度を2 に設定しておきましょう。

生育ステージ								
安全限界温度	-3.5	-2.2	-2.2	-2.1	-2.0	-1.5	-1.5	-1.7

中央地区営農係

- 藤崎支店 佐藤 一真（080-6038-9874）
鳴海 清志郎（080-9335-0829）
清野 直人（090-6220-9285）
松岡 巧子（080-6045-9817）
- 和徳支店 泉 莊（080-6011-5366）

営農関係でのご質問・相談等がございましたら、担当者へ連絡下さい！

生態の早い年は、凍霜害に注意しましょう！